

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
米山カ のり子 かれん 風子	しーしー			佳月 みづる	蝸牛 破れ蓮	マスミ	好子 あらか		霜里 喜夫 土璃		大越マ 癒香 喜夫			良月
草青む膨らんである地平線 地平線が膨らむのが良い。春の季節の到来を地平線で巧く表現。草の芽吹きで地平線が膨らんで感じる早春の様子が出ている。草草の春の生命感が良く出ている。	春泥の路地来る手押し待つ漢 手押し（車）と「漢」の落差がほほえましい。	春の灯や老松酌みたきお聖女と	モンスターを従え親王雛鎮座	ぎよつとする父の一言木の芽時 何を言われたのか、気になりますね。ドキッし、聞き違いなら良かったけど、まさか…と父の健康に不安を感じる瞬間でしょうか。	雛の宴稚児を囲みて父母祖父母 和やかな雛の宴が想われる。雛祭りを祝う親子三代が表現されている。	優しいな亀石の目や村のどか 明日香地方に点在する謎の石像「亀石」の優しい気な眼。人々に愛されまもられて静かに鎮座している。	雛飾る嫁いで行きし子の部屋に 子供が巣立ち、がらんとした部屋に飾られた雛人形。その華やかさに、一層の寂しさを感じます。	蜥蜴出で足の竦みてたじろげり	春うらら知足に笑めり石仏 柔和なお顔が春に似合いますね。石仏の笑顔が、人生これでもいいのだよ、よくやっているよと、言ってくれているのでしょうか？人生は知足ですね。「知足に笑めり」が斬新だと思います。	春うらら妻と歩いた白良浜	青を踏み記憶を拾ひ老いを知り リズムカルでいいですね。記憶を拾ひの表現が良い。老いのボケは当たり前前、それでも前へ前進あるのみです。いいですね。	長閑なり馬に跨りぽっくりと	子供らのはしゃぐ声する花の下	忍耐も欠かせぬ一ツ寒の釣 寒さと待ちの忍耐が冬の釣りには必要ですね。
くるみ	高原ひろし	瞳人	しーしー	ありぎりす	松田素風	森佳月	檜鼻ことは	幸子	衛	宇田靖之	傘張り浪人	米山カロ ーリング	ささき良月	幸子

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年三月
	総太郎		素風 蝸牛 俳翁 絵夢	ことは くろみ 六弦 かれん ひろ志	大越マ 米山カ マスミ しーしー 光雲2		総太郎	ひろし 彩香 瞳人 六弦 あらか 月を	展乎 みづる ありぎりす	俳翁 土璃	破れ蓮 俳翁				
子と節句祝ひしことも桃の花	花映る澄みし瞳や思ひ人	春疾風右翼の軍歌ぶった斬る	表札に土な落しそ親燕	陽炎と共に乗り込む渡し舟	白梅にふくらみ重ね明けの雪	娘より旅の土産の煮蛤	動画にて春告鳥を贈りけり	弟をいつも従へ春の泥	田にあればおのずと水の温むなり	広げ干す蒲団にとまる春の蝶	なるの跡残れる能登の忘れ雪	蔵町の菓子屋横丁鐘おぼる	花蕊散る駅舎へ夫の肩借りて		
大東暮風	立野音思	新曆文	破れ蓮	光雲2	みづる	ひろ志	横井あらか	岩本展乎	神谷たくみ	新井のり子	安田蝸牛	一駄歩	しんい	岩清水彩香	

花蕊散る駅舎へ夫の肩借りて

蔵町の菓子屋横丁鐘おぼる

雛納飾り箆筥に風すぎる

災害に見舞われた能登の苦しみが伝わる。まさにいまの能登の景。季語忘れ雪が効いている。

なるの跡残れる能登の忘れ雪

春の日は燦燦と降る昼のどかな景を切り取っている。うららかな春が心地よいです。

おのずと水のぬるむ、がいい。冷たかった田水が春とともに少しずつ温かくなり、今年の青田への期待を膨らませる。おのずとの措辞がいい。毎日田んぼに出ているから分かる季節の移ろい。

田にあればおのずと水の温むなり

やんちゃな弟がいつも泥んこ、それを主語と目的語を入替え季語の「春泥」が弟を従えてるとしたのに感服。末はおんな番長？いや、姉の貫禄。いつもと言う表現が効いています。寒さが和らぎ、ぬかるみも気にせず遊び回る元気な兄弟。その姿に、昭和の懐かしい光景がよみがえります。兄弟の遠い思い出ですね。

弟をいつも従へ春の泥

私もスマホで動画を遣り取りしてます。

動画にて春告鳥を贈りけり

娘より旅の土産の煮蛤

綺麗な情景が浮かびます。ふくらみ重ねが良い。先日さいたま市にも雪が降った。しばらくの間、咲き掛けた梅の蕾を包むように降っていました。中七の「ふくらみ」がいいね。

白梅にふくらみ重ね明けの雪

いい風情ですね。選評：のどかな春日和の景が目に浮かびます。静寂な景が目にかびますね。水面を照らす日も舟もすべて光に包まれ、ゆらゆらとした感じがする。矢切と柴又間お江戸川の渡しでしよ。うか。春の良い陽射しを彷彿します。

陽炎と共に乗り込む渡し舟

「なくそ」の措辞が巧みである。燕の親子への優しいまなざしが感じられる。道真公の春な忘れそとおなじかたちの作りで、目新しい詠みぶりに惹かれた。句の内容も佳し。燕を見守るやさしさが、中七に凝縮されている。

表札に土な落しそ親燕

春疾風右翼の軍歌ぶった斬る

花を見ている人の眼を近くから覗き込んでいるんですね。このような場面が私にもあつたなと思います。

花映る澄みし瞳や思ひ人

子と節句祝ひしことも桃の花

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
一葉 龍野 破れ蓮 絵夢	龍野 暮風 ありぎり す		米山カ 一駄歩	総太郎				楽 幹子 風子	順一	ことは くるみ 浪人 田猫 ありぎりす			浪人 絵夢	
卒業の詰襟のせて島渡船 <small>日は最後の渡船でしょうか？島を出てゆく卒業生かもしれませぬ。島の外への進学、希望と不安。島を出て行く卒業子の姿が晴れやかに描かれていす。「詰襟」が、旅立つ句の情景を広げている。</small>	青き踏む風に乗る子と乗れぬ子と <small>こどもの奔放な様子。</small>	春分の客のスリッパ新たかな	井戸桶に花卉の浮かぶ彼岸かな <small>井戸桶が良い。井戸桶に目がつけているのがいい。</small>	来し方の過ち数え雪の果 <small>私も、なぜか失敗ばかり思い出してしまします。</small>	願いごとばかりの遺影に蓬餅	初音嬉しや口笛で真似てみる	鐘鳴らすキッチンカーやわらび餅	駐在さんの趣味は筋トレ村のどか <small>平和な村を想像しました。駐在さんが多忙より、有事に備え体を鍛えている姿に平和を感じます。まさにのどかそのもの。</small>	ボンネットに猫の足跡よなぼこり <small>猫の王国、猫の領域なのでしょう。</small>	B面へつづくドーナツ盤の春 <small>B面へ憧れと夢がつづく春ですね。ノスタルジック・・・最後の季語がお見事。ゆつくりと裏返されるレコードが、ゆつくり訪れる春と響き合う。ビバルデイの四季 かな？</small>	鋤き畠や戯けるやうな春の土	雀のたまり場雪野の一本木	卒業写真坊主お河童セピア色 <small>だから、みんなビートルズの長髪を真似したんでしたね。</small>	独裁の怖さ知らずや鳥帰る
河野凡士	丸山マシミ	平野楽	秋谷風舎	霜里	小林土璃	龍野ひろし	かれん	荒一葉	俳爺	石関六弦	網野月を	いさむ	和田イチ子	青木鶴城

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46
		月を			彩香	ひろ志	好子	くるみ 佳月 しーしー 梗舟		好子 田猫	たくみ	楽 田猫	マスミ 癒香 土璃 暦文	
天空に墨汁垂らす鴉かな	シクラメン廊下にレッグ練習機	勇気なき人は嫌ひよ桜貝 告白することは勇気の有る無しではないように思います。	春の雪彼岸中日にまたひらり	膝抱え揺らぐ決断春こたつ	喇叭水仙ばやきを聞いてくれますか らっぱ水仙、あの花の形に 「ばやきを聞いてくれますか」 との呼びかけが詩的。	初雷や切り絵を習う昼さがり 昼雷は、驚かされます。	啓蟄や這ひ出す世には希望馳せ	鳶職のシルエツトになり春夕焼 中八が気になります、水彩画のような柔らかな景を上手く詠まれた 思います。シルエツトが効いて、景が浮かびます。工事現場の遠景が リアル。情景が浮かんできます。	天日の日照りて重し枝垂れ梅	春浅し祈り届かぬガザの空 アメリカのガザ所有家は賛成だが、平和への道の遠さと季語が響き合 う。	着こなして路行く犬や若葉燃ゆ 最近の犬のおしゃれなこと、犬への愛が感じられます。	霾やブルカに隠す薄笑ひ	蒲公英の絮の行きつく園児帽 季語との取り合わせがいいと思いました。くすつと笑える出来事と は？ 目元のレースに秘められたイスラム教徒の穏やかな日常。	毛氈に雛人形よ我が机
ささき良月	石川順一	染谷風子	大塚好子	渋谷きいち	佐藤幹子	雪待月田猫	酒井癒香	朝香	岡本たか子	持永喜夫	絵夢	大越マー ガレット	岡崎梗舟	総太郎

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
暮風	凡士			蝸牛 楽 みづる		良月	光雲2	しんい 梗舟 幹子 月を	しんい	朝香			梗舟	霜里
花曇みづうみ瑠璃を深くして	春の灯や佐伯目刺しの氣立て佳く うらやましい、佐伯の目刺しで一杯やりたい。	街路樹の梢をゆらす鳥の恋	春泥の路地来る手押し待つ漢	小夜荒れて地に満目の落椿 「満目の落椿」が効いている。かつてどこかで見た風景です。一夜明け、一面に敷き詰められた花はあたかも地に咲いているかのような美しさ。	麦を踏むふわりと浮かぶソリユーシヨ	托鉢の僧の足踏み春の雪 靴の雪を落としているのでしょうか。雪の深さとお勤めの大変さがうかがえます。	静寂の池面を乱す春の鯉	啓蟄や妻の床上げ祈る日々 是が非でも床から這い出して下さることをお祈り申し上げます。無事回復に向つていくのでしょうか。奥様の快復を願つていらつしやる思いが伝わってきます。この齢になると妻の病み付きほど心を塞ぐことはありません。	東風吹くや上七軒の石畳 京都の觀光名所、そつのない句。	春夕焼けジグザグデモに影揺れる 喇叭水仙の黄色に魅せられ、形がラッパのようで、ぼやきたくなる氣持分かります。	貧乏性故か春宵もて余し	雛納め嫁に行くなと今日四日	舫い舟風にゆらりと水温む ゆらりが良いですね。	羊齒萌ゆる羊は食むか食まぬのか 確かに、気づいてしまうと氣になります。
しんい	瞳人	くるみ	高原ひろし	松田素風	しーしー	ありぎりす	幸子	森佳月	檜鼻ことは	傘張り浪人	衛	宇田靖之	幸子	米山カロ ーリング

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76
	一葉 凡士 朝香 喜夫 風子	しんい 大越マ 素風 癒香 朝香 光雲2		展乎 たくみ 瞳人 あらか 良月 一駄歩	佳月				凡士		素風			
通学路児童一人や卒業し	設計と違ふ人生犬ふぐり 人生なんてそんなもんでしようね。私は行き当たりばつたりでの人生で した。まあ人生の今を楽しみましょう。上五と中七に共感大です。季 語の「犬ふぐり」が秀逸です。人生どんな状況になるうとも犬ふぐり みたいになんて愛犬のいぬふぐりみたいいな物ですよ。	陽炎ひて湖に幽けき浮御堂 琵琶湖の景勝地、満月寺でしょうか。近江八景の堅田の浮御堂が想起 される。幻想的で描写が絶妙です。春らしい琵琶湖と浮御堂の景が目 に浮かぶような美しい句です。	紫木蓮雨を弾きて咲きにけり	団長も告白出来ず卒業す 団長も硬派ひとすじではなかつたのだ。「団長も」「卒業」で二人の 関係がよく表現されています。あはは、それでいいよ、それが初恋ひ。 男泣きの卒業式。団長も団員も、同じマドンナに片思いしていたのか もしれない。硬派と告白できないという軟弱さ。団長すらも併せ持つ ようでした。面白さが表現されています。いかつい団長の姿が見える ようです。	踏み石に散りし椿の掃かれずに 敢えて残しておいたのでしょうか。	冴え返るビターの効いたチョコレート	追伸の文字はグリーン春隣	早春の天使はやたらお節介 佐保姫は気まぐれです。まあ天使のおせっかいも含めて、満開の桜が 待ち遠しいです。	鶯の声や敢えての電話越し	ポニーテール春の愉しと揺れにけり	放下してつましき暮し目刺焼く 「放下」という措辞と季語が呼応している。	さみしいと声にはせずに卒業す	内裏雛天上眉にある愁ひ	春泥を跨いだ仮設に歌の節
和田イチ子	青木鶴城	破れ蓮	立野音思	新 曆文	ひろ志	光雲2	みづる	神谷たくみ	横井あらか	岩本展乎	安田蝸牛	新井のり子	岩清水彩香	一駄歩

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91
一葉		たくみ 順一	幹子		瞳人	のり子 彩香 六弦 かれん		のり子 曆文	ことは 暮風 浪人	龍野 一駄歩 順一		ひろし 霜里		
勘亭流の文字高々と春歌舞伎 骨太で威勢のいい勘亭流文字が歌舞伎に春を呼んでいます。景が見えてきます。	母と来たお寺の茶屋で草餅よ	人間も海苔にもあるさうらおもて 裏表が難解な海苔。「あるさ」での俳諧味。詠み方に惹かれました。	梅東風に頭撫でられ卒園す 卒園していく園児の愛らしさと、季語と相まって詠み人の優しさを感じます。	雨上がり朝の囀ホーホケキョ	彼岸入無事を祝ひてせいろ蕎麦 そこに、ぬる爛つけて、ささやかに。	追ひかけて追ひかけられて石鹼玉 石鹼玉の句はどれも優しい句。追いかけて追いかけるのはシャボン玉？シャボン玉がシャボン玉を追いかけて合つても、読めて軽やかさと長閑さがリズムカル。シンブルで春らしく明るい句です。石鹼玉を子どもたちが吹きながら遊んでいる様子が見える。	あつちで落ちこつちで揚がる雲雀かな	その中にハングルの文字受験絵馬 見る側のその時々的心を映す雛人形。	たんぼぼや心にぼつと灯がともる 平明で素直な措辞に心が和みます。	啓蟄やまづ農機具の試運転 いよいよ農作業開始。農機具を選ぶのは実感がこもっている。収穫の期待が膨らみますね。	春の日や庭の花芽の生き生きと	ひたすらにひかりへおりる春の坂 光満ちる季節です。	春の風うなぎ處とカレー屋と	きさらぎの望月しづかにのぼりきし
丸山マズミ	総太郎	河野凡士	霜里	平野楽	秋谷風舎	龍野ひろし	小林土璃	俳爺	かれん	荒一葉	いさむ	石関六弦	網野月を	大東暮風

		118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106
												暦文		ひろし 展平 ひろ志
		制服は明日でお別れ桜貝	春の鳥餌は白菜柑橘類	蛇穴を出てスナツクス のナポリタン	奥山の雪どけ水に朽葉 (くちば) 光る	桜指し次の名さくらとせがむ子	落椿歯医者 の白い石畳	デートのごとふたり静かなおひなさま	春浅し昨日のひとの顔おぼろ	八十路姉妹田楽分 かち楽しげに	卒業生机綺麗に並べをり	牡丹雪着地は孫の掌	ウエーブや球春襲う推し活よ	先生の癖をまぬる子水温む <small>どんな癖なのか、ほほえましい。新しい担任の癖を真似る児童、先生が好きなんだなあ。</small>
		染谷風子	石川順一	渋谷きいち	大塚好子	酒井癒香	佐藤幹子	雪待月田猫	持永喜夫	朝香	岡本たか子	岡崎梗舟	絵夢	大越マー ガレット